

**平成 28 年度「県と市町の地域づくり連携・協働協議会」(地域会議)
1 対 1 対談 (多気町) 会議録**

1. 対談時間

平成 28 年 8 月 22 日 (月) 9 時 00 分～10 時 00 分

2. 対談場所

多気町立ふるさと交流館たき 1 階 コミュニティルーム
(多気郡多気町相可 1600 番地)

3. 対談市町名

多気町 (多気町長 久保 行央)

4. 対談項目

- 1 新規就農に伴う就農フェアについて
- 2 町内特産物の六次産業化について
- 3 食のまち多気 魅力創造
- 4 獣害対策の強化について
- 5 バイオマス発電への広域的な木質バイオマス供給体制構築について

(1) あいさつ

知 事

皆さん、おはようございます。きょうは、早朝から、久保町長におかれましてはお時間をいただきまして、ありがとうございます。久保町長と 6 回目の 1 対 1 対談になるわけですが、今回もそうですけど、毎回、食などを中心として前向きなご意見を賜っています。ぜひ、きょうも有意義な時間になりたいと思っていますので、よろしくをお願いします。

まずは、先般 5 月 26 日、27 日に行われました伊勢志摩サミットにおきましては、久保町長はじめ、多気町の皆さんに大変お世話になりました。改めて感謝申し上げたいと思います。とりわけ配偶者プログラムの最初の昼食におきましては、相可高校のメンバーが、多気町で収穫された野菜や卵を中心に配偶者の皆さんに昼食を振る舞ってくれました。私も最初に英語で挨拶をさせてもらって、その後、相可高校のメンバーが英語で説明をしたり、サーブをしたり、料理だけでなく非常に神経を使いながら最高のおもてなしをしていただいて、大変評価が高かったようです。時折、出てきた料理に対して拍手喝采があったりして、非常に評価が高かったと聞いています。そういう担いをしていただいた皆さんに、改めて感謝申し上げたいと思います。それから、クリーンアップ活動などでもお世話になりま

したが、本当に町民の皆さん挙げて応援をしていただいたことに改めて感謝申し上げたいと思います。

それから、多気町と勢和村の合併 10 周年ということで、10 月 10 日にマラソン大会を開催すると聞いています。ぜひ、10 年の節目で皆さんが一致団結して、これからの多気町を前に進めていく、そんな機会になることを心から祈念したいと思いますし、さまざまな場面で県としましても多気町と連携していきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

きょうはどうもありがとうございます。

多気町長

改めまして、おはようございます。私のほうから知事にお礼を申し上げたいと思います。本当に朝早くから遠路多気町まで来ていただきまして、ありがとうございます。

今、伊勢志摩サミットのこともおっしゃいましたが、逆に、私のほうからお礼を言いたいのは、多気町をまた相可高校をPRしていただきまして、本当にありがとうございます。ジュニアサミットでは、「まごの店」にも来ていただきましたし、それから、今言われました配偶者プログラム、また、先遣隊のときにも志摩のほうへ私どももお招きをいただきまして、2、3の国の大使の方ともお会いさせていただきました。多気町をこういう場に引き出していただいて、本当に感謝を申し上げたいと思います。

また、来年5月に全国菓子大博覧会がありますので、なんとか多気町が「食のまち」というのをPRしたいと思っており、多気町の職員も1人、9月から全国菓子大博覧会の実行委員会に派遣する予定にしています。券もまだまだたくさんあるということですので販売をして、三重県のお菓子の良さというのを世界また日本全体にPRできればと思っています。

きょうは、私から5項目ほど挙げさせていただいていますので、よろしくお願いします。

(2) 対談

1 新規就農に伴う就農フェアについて

多気町長

1 番目の就農フェアにつきまして、これは東京、大阪、名古屋で開催されておりまして、また、今度、県のほうでも実施していただきますが、集客が少ないということもありまして、ぜひ多気町を見学できるような機会、特に伊勢いもや柿などをPRしていきたい、松阪牛も含めてですが、そういうことをしていきたいので、ぜひ、三重県主催で近郊の都市部で就農フ

フェアを開催していただければと思っています。

これは、2つ目の「町内特産物の六次産業化」とも絡んできますので、ぜひ、そういった取組を県のほうで行っていただければと思います。

知 事

就農フェアは、今別の仕事に就いている方が就農するということだけではなくて、移住をしたいという方のニーズが結構ありますので、そういう方もターゲットにして就農をしっかりとPRしていこうと考えています。

町長がおっしゃっていただいた、県で行っている三重県農林漁業就業・就職フェア、これは津の総合文化センターで毎年度2回開催していますが、確かにここ数年の参加人数は毎回100人程度で推移をしているということです。母集団が多くないといろんな就農の働きかけも意味がないと思いますので、昨年度から、東京にあります「ええとこやんか三重 移住相談センター」をサテライト会場とした参加者募集を行ったり、津の会場で実施しているので、津市内の自治会での案内チラシ回覧などによるPR活動を行っています。出展者の方々からも集客アップのご要望をたくさんいただいていますので、ぜひ、引き続き参加者の増加に向けた取組を強化していきたいと思っています。

それから、国が行っている就農フェアにつきましても、県や農林水産支援センターから出展を申し込んでいますが、農業法人が優先となるため、昨年度は2回のみ出展にとどまっています。本年度から、新たに名古屋等の地域ブロックごとの開催も追加されているものの、キャンセル待ちの状況ですので、国に対して、開催規模のさらなる拡大を要望していきたいと思っています。

それから、三重県主導での県外での就農フェアにつきましては、先ほど申し上げましたような移住とセットで、東京の移住相談センターや、あるいは今年度設置した大阪・名古屋の移住相談デスクで、大阪は月1回、名古屋は年3回ですけども、そこで事前予約で就農希望がある場合は、県の就農担当者が直接出向いて行って相談を行うというような態勢も整えていますので、少しでも就農に結び付く情報提供や相談活動をさらに強化していきたいと思っていますので、よろしくお願ひしたいと思っています。

多気町長

これはよく言われますように、目的は農業振興のためということになっていると思いますが、多気町の若者の新規就農支援が主目的でして、それにはやはり多気町を知ってもらうことが必要であると思うので、近くよりもできれば遠いところの人のほうが、人口的にもたくさんいますので、ぜ

ひ、東京、大阪、名古屋の都会の若者が多気町にはこんな特産物があるのかということ、知ってもらうためにはやっぱり一番いい機会ですので、近郊の大きな町でやっていただくとありがたいです。また、担当のほうで言っていましたのは、ブースを出展したいが早期に枠がいっぱいになって出展できなかつたということがありますので、ぜひ、県独自でまた行っていただければと思います。

2 町内特産物の六次産業化について

多気町長

これはもう多気町の農業の中の一番主要項目といたしますか、コメやムギや大豆はもちろんですが、多気町の特産物として挙げていますのが伊勢イモと柿です。私が就任させていただいた平成 22 年から、新規就農者支援ということで月 20 万円、年間 240 万円の補助金を出させてもらうという制度をつくりまして、効果がありました。その後、国のほうも「人・農地プラン」の関係で補助金を出していただきました。今、若者の就農者が 13 名ほどいて、その中に「伊勢イモにかかわっていこう」という方が、新しい人も含めてですが 10 数名います。この伊勢イモの新規就農者、それから柿の新規就農者、それと合わせて、ここで挙げています 6 次産業化に取り組んでいきたいと思っています。

今から 30 年ぐらい前ですと、大体 70 から 80 ヘクタールぐらい伊勢イモが栽培されていたんですが、今は 20 ヘクタールを切っています。逆に値段は、20 年前、30 年前とほとんど変わっていません。ということで、今、とにかく付加価値を付けて収益を上げないことには若者の新規就農もないということで、6 次産業化をめざしたい。柿も同じで、タイなどに出荷して結構な収益を上げていますが、最盛期になりますと価格がぐんと下がって、柿の良い実がカラスのエサになってしまうということがありますので、それらも全部収穫をして、ペースト状にして例えば柿などと混ぜてスイーツができないかと思っています。

先週の東海農政局局長との対談のときにも、なんとか国も支援してくださいとお願いしました。県の農業振興協議会の中でも、普及センターにも協力をしていただきたいとお願いしています。今、一生懸命そういう取組はしているのですが、ぜひ、これについて、県のご支援とご協力をお願いしたいということでもあります。

知 事

6 次産業化については、我々も大変重要な課題だと思っていまして、県

のほうで、三重県6次産業化サポートセンターを設置させていただいています。当然のことなんですけど、それぞれの生産者あるいは品目の状況に合わせてどういう道があるかと、個別に対応していくのが一番いいと思いますので、6次産業化プランナーを、農林漁業者からの要望に応じて派遣させていただいて、その事業化に向けた具体的なアドバイスや商品開発、販路拡大など段階に応じた支援を進めています。

併せて、その補助事業も準備していきまして、主に国の6次産業化ネットワーク活動交付金などを活用して商品開発や販路拡大のためのソフト事業や、施設整備や機器等のハード事業の支援も進めていますので、ぜひ活用いただければと思います。

県内で6次産業化事業計画が52件認定されているわけですが、多気町内でも、「元丈の里」と「松本畜産」が計画認定を受けています。こういう計画認定のほかにも県単事業やサポートセンター事業もありますので、個別にご相談させていただきながら積極的に支援をしたいと思っておりますし、活用いただけるような形で進めたいと思っております。

柿のほうは、今町長もおっしゃっていただいたようにタイに輸出していますが、さらにいい価格で売れるように、輸送している間に劣化しないように包装の見直しなどをして、きちんとした価格、あるいはタイのマーケットに合わせたパッケージングの開発などもしていますので、さらにいい価格で売れるように販路拡大の支援などをしていきたいと思っております。

多気町長

特に伊勢イモにつきまして、今、私が提案していますのは、伊勢イモの皮むき器と伊勢イモ擦り器、そしてもう一つは、伊勢イモはやっぱりだし汁を入れてとろろ汁にするのがおいしいので、そういうのができるような器械をと。これは地方創生の中で、ハード部門になると思っておりますが、その辺の協力をできないかということを考えています。これはひょっとしたらうまくいくかもわかりません。

今の若い奥さん方というのは、伊勢イモの皮をむいて擦って食べるということをやらないので、飲むタイプのアイスのようなパウチ容器にとろろ汁を入れて提供することができないかと考えています。1週間ぐらいならもつと思いますので、すぐにご飯にかけてとろろ汁を食べることができる、それにノリをかけたらもうおかずは要らないと思うんです。そして、夜は安物の刺身でもいいから伊勢イモを混ぜて食べたら、本当のマグロのトロの刺身が食べられるというぐらいになりますので、そういうことをしていきたいと考えています。

また、柿については、アクアイグニスの中でやっていただいています辻

ロパティシエが多気町の医食同源のアドバイザーになっていただいていますので、ぜひ、柿を使ったすばらしいスイーツを作っていきたいと考えています。これをするには、やっぱり6次産業化にもっと力を入れなくては、多気町の特産物が前を向いていきませんので、ぜひ、その辺のご協力もお願いしたいと思います。

知 事

まだ全容が判明していませんが、経済対策で閣議決定されて今度の臨時国会で審議される補正予算で上乘せされる地方創生の交付金は、我々のいろんな要望もあって、今まではソフトだけだったのですが、ソフトに関係するハードも対象となるようですので、どこまでの範囲になるかわかりませんが、また我々も情報収集して、そういうものを多気町さんにも活用していただけるような支援をしていきたいと思っています。町長は、いつも具体的なアイデアを出していただいていますので、そういうのが実現するように我々も応援していきたいと思っています。

多気町長

石破さんにも直接お会いして、道路まで付けてくださいとは言いませんので、なんとかハード部門も補助対象にしてくださいとお願いしまして、国のほうも段々とそういう方面に道を開いてくれたかなと思いますので、ぜひよろしくをお願いします。

3 食のまち多気 魅力創造

多気町長

これは、知事が最初におっしゃったように、私たちの町は相可高校というすばらしい学校と一緒に連携をしています。県立の学校でありながら、「まごの店」を作るときは一部県・国の補助もいただいて施設ができました。テレビドラマ化のときには、改修費数千万円をかけて中を全部改造しました。きょうは議会の皆さんもおみえになっていますが、これは本当に議会の協力もありまして、いきなりテレビがあるというので、細かい資料なしに予算もみていただきました。そんなことで、今は安定的にお客さんも来ていただいています。

こういうことも含めて、多気町の食の魅力というのは、今言いました柿もありますし、来年1月になったらおいしいタケノコも掘れますし、もちろん松阪牛もありますので、こういうものを発信していきたいと思っています。それから、もっとPRしたいのは薬膳料理です。これは、多気町出

身の野呂元丈という8代将軍徳川吉宗の頃のお目見え医師がいて、なかなかこんな田舎町からお目見えする医師というのはいなかったと思うんですが、その人が薬草を栽培して提供してということがありましたので、これを生かしてということです。多気町の「元丈の館」では、これは知事にも平成26年度の1対1対談のときに来ていただきましたが、薬膳料理を今提供させてもらっております。意外と安くて、1,200～1,300円で食べられます。薬草園にはいろんな薬草もあります。

こういうことも生かして、これもアクアイグニスとの絡みもありまして、今、相可高校の生徒たちはアクアイグニスに行っていると思うんですが、3年前にもアクアイグニスでこういう薬膳料理を提供していただきました。このときは、イオンの会長さんやロート製薬の社長さんたちにも来ていただきました。そこで、「多気町はこんなこともやっているのか」ということもありましたので、多気町の食の中には薬膳があるということも、豊かな自然の中で発生してくる食材があるということもPRしていきたいので、ぜひ、「食のまち多気」というのをもっと発信していきたいということで、それにつきましてもまた県の協力をいただきたいと思います。

知 事

先ほども申し上げましたとおり、伊勢志摩サミットで相可高校あるいは「まごの店」がPRされ、また、そこで多気町の食材それから日本酒の銚杉も伊勢志摩サミットの中で使われましたので、様々なPRにつながったと思っています。

県でも、平成27年度の7月に「みえの食の産業振興ビジョン」を作って、人材育成や商品開発などの部分を考えて、担当部署もつくって進めはじめたところですが、私自身も1年ぐらいそういうことをやってみて実感しているのは、多気町もそうですが、食を売りにしている市町があるにもかかわらず、そういうところとの連携が弱いと感じているところですので、これからは、一つの方向性としてビジョンを作りましたので、具体化をしていくにあたってもっと市町と連携して、それぞれの市町でPRしているものとか指針とかビジョンみたいなものと連携する取組をしていったほうがいいのではないかと考えていまして、担当部署のほうにもそういう形で指示をしていきたいと思っています。

そういう形で面的に市町と連携した取組になっていることで、販路拡大をするときも具体的な話が進みやすいでしょうし、食を求めてとか入込み客が来るときも面的な取組がやりやすいと思います。今、ちょうど緒についたところですが、ぜひ、多気町の「食のまち」の取組と連携をしっかりとっていく、市町と連携していく取組を強化して、食について三重県もしっ

かり取り組んでいきたいと思ひます。

なぜ三重県が食をやり始めたのかということについては、優れた食材がたくさんあるということだけではなく、三重県には食の関連の雇用が多いのです。例えば卸売、小売というカテゴリーが一番雇用が多いのですが、その3分の1が食の関係ですし、2番目が宿泊・飲食でそこはまさに食ですし、3番目が製造業でその中で一番多いのが食料品製造業であり、まさに食が三重県の雇用を支えているということですので、ぜひ、今おっしゃっていただいたような「食のまち多気」の取組と連携してPRなども一緒にやっていきたいと思ひます。

多気町長

今、私が申し上げました薬膳をもっとやっていきたいというのは、今言いました野呂元丈さんもあるのですけれども、鈴鹿医療科学大学とも連携させてもらっていますし、また、日本薬膳学会に入りませんかという話もありまして早速入らせていただきました。アクアイグニスの関係でも、ロート製薬さんから、「多気町で薬草栽培ができないか、また、その薬草園も一緒にどうか」ということで、話をさせてもらっています。

どこでもたくさん食はありますが、三重県で「体にいい食」、薬膳の店というのはあまりありませんので、「三重県の多気町へ行ったら、おいしい薬膳が食べられる」、「血圧によい」、「糖尿病にもいい」、そういうことをやっていきたいと考えています。「酒を飲んだ後は、こういうのを食べたらくくなる」、そういう料理が提供できるような町にしていけたらもっと多気町にも来てくれるかなと思ひます。

全然それと違いますが、多気町には「ふるさと村」というのがあります。同じように「おばあちゃんの店」というのがあって、JAさんのスマイルさんとか大手スーパーさんにも地元食材も出ていますが、「多気町のふるさと村に行ったら、有機栽培や無農薬の物があるとか、健康にいい食材しかない」、量は少なくてもいいからそういうものをやったらどうかと今も提案をしているんですが、そこから生まれてくる食材で健康にいいものを作ってあげればと、こんなことも思っていますので、よろしくお願ひします。

知 事

県内もそうですし他県でも食をPRしている地域はたくさんあるので、それと差別化を図っていくということは大事ですから、その中で薬膳というのは差別化の一つのツールだと思いますので、我々もPRと一緒にやっていきたいと思ひますし、どんどん先進的な取組をしていただければと思

います。

4 獣害対策の強化について

多気町長

多気町よりももっと獣害対策が大変なところがあると思うのですが、多気町も変わらず、もう大変な獣害被害の報告を受けています。

私は今、49の自治会を回って懇談会を6月から始めていまして、30ほど回ってまだ18地区残っていて、また今晚もあるんですが、この地区が済むと今度は勢和地区に入りますので、多分入ったら、その獣害の被害対策をどうしているのかと言われます。2年前の懇談会的时候にも、「町長の家の前にイノシシや鹿を置いたろか」というようなことも言われましたので、こんなことを言われなくてもいいようになんとかしたいと思っています。これはもう県だけではなく、先週金曜日の東海農政局長との対談のときにも、もっと国のほうも考えてほしいということは言いました。農作物の被害が多いということで、これは農家だけではなく林家も被害を受けています。植林してもすぐに苗を食べられるということもあります。

多気町では、去年、イノシシが230頭ぐらい、鹿はちょっと少ないですが、サルもかなりの頭数を捕獲して適当な処分をしているのですが、全然減らない。以前よりもたくさん数を捕っているのですが、生殖能力が強いというか逆に増えている状況です。先週ちょっと山間の集落へ懇談会に行きましたら、私の作っている畑を見てくださいと言われ見てみると、網の中で農家の方が野菜を作ってみえるんです。網の中で農業をしなくてはならないという状況もあります。

町も年間1,000万円を超えるような補助金を出して対策をしているのですが、一向に減らない。そこで、ワナをすとか柵を張るとか、そんなことをやって捕って処分をする、これはどれだけやっても意味がないので、東海農政局長との対談のときにも、もう国も根本的な対策をやってくださいとお願いしました。多気町の猟師の話をお聞きすると、捕ったら捕った以上に、今は種を保存しなくてはならないので動物は年中交尾をするんだといったことも言っています。多分闘いをしたら人間は負けると思います。何かの宣伝文句ではありませんが、「元から断たなきゃだめ」ということで、本当に根本的にやらなくてはと思います。要するに、子どもがそんなに増えないような対策をやっぱりやらしてもらわなければだめだと思いますので、これはもう、県の話ではなく、環境団体も含めてですけども国のほうへ、環境が変わったというのではなく、何か元を変えてもらわなければどうしようもないと思いますので、繁殖しない方法をぜひお願いしたいと

思います。

知 事

獣害対策は、私が知事に就任させていただいたのが平成 23 年ですけども、平成 24 年から獣害対策課をつくって、全国で獣害対策課があるのは三重県と高知県だけなのですが、ずっとやってきました。当初は 8 億円を超える農林水産被害があつて、これは全国でも 2 番とか 3 番とかそんな状況でしたが、現在はなんとか 5 億円台に下がってきております。

とりわけ鹿は、僕が知事になって最初の頃は全国でもトップ 10 に入るようなところでしたが、大体 20 番ぐらいのところまで下がってきて、イノシシもそうなのですけど、一方で、今、多気町が、個体数の調整で地域実施計画をやっていただいているサルによる被害が、これはいまだ全国で 2 番目ぐらいに多いような状況でありまして、多少トータルでは被害額が減っているものの、まさに町長がおっしゃったイタチごっこみたいな状況が続いているのは間違いないと思います。

併せて、被害額は減っていますが被害件数は増えていまして、これはどうということかという、侵入防止柵などを張れるようなところは被害が減っているのですが、それができない小さな農家などに被害が発生しているというような状況であると、我々は認識しています。我々も今、大量捕獲ができるような仕組みや、サルの行動域調査のための発信機の装着など、いろいろ技術開発なども進めています。根本的な対策については国の支援も必要だと思っておりますので、我々からもしっかりと国のほうに話をしたいと思っております。

多気町に侵入してくるサルは大台町から来るサルもいると思っておりますので、県としましては、そういう複数市町にわたるサル群の管理についてはしっかりリーダーシップを発揮すべきと思っておりますので、多気町と大台町の関係者での協議の場の設定とか、計画的なサルの捕獲と群れの管理に向けた支援をしっかりと進めていきたいと思っております。

いずれにしても、先ほど町長がおっしゃったような根本的な対策については国の支援も必要ですし、今回どうの中身が出てくるかわかりませんが、経済対策の中でも獣害対策の話は載っていましたので、またその補正予算などでどういうものが出てくるか見て、そういうものもしっかり活用して、獣害被害の軽減に向けてしっかりと取り組んでいきたいと思っております。

多気町長

今知事がおっしゃいましたように、県のほうでも数億円を超えるような予算もありますし、今言いましたように町のほうもあります。これは、変

な意味、捨てるお金で何も生産効果を上げない。ただ、確かに駆除するのでその分の被害は少なくなるかわかりませんが、現実的にはほとんど農作物の収益というのは上っていない。被害はそのままということもありますので、先ほども言いましたように、なんとかそれを根本的に変えないといけないと思っています。サルも、町の職員が一生懸命頑張っ、かなりの頭数を捕獲して処分したのですが、今言われたように隣の町からこちらへ引っ越してくる。これはもうたまったもんじゃない。これはイノシシも同じです。今まで、川べりの田んぼはもうイノシシの被害なんて全然なかったのです。ところが、今は川を泳いでくるので、一番川べりの田んぼの被害が多い。鹿は夜はあまり動かないということですので、一応国のほうで夜鉄砲で捕ることは認められるようになったようですが、夜なら自分たちでも撃てるぐらいに全然動かないらしいので、夜にもっと捕獲ができるようになるというのですけれども、イノシシと鹿はやっぱり銃で殺処分しないことにはなかなか難しく、サルの場合は檻の中に入れていないことにはどうしようもないと思います。

ところが、今言いましたように捕っても捕ってもよそからこちらに来るので、これを止めようと思うとやっぱり根本的に、集めて殺処分するだけではもうどれだけやっても追い付かないので、以前も言ったと思いますが、職員に聞くところによると、高崎山では避妊薬を使ったりして実験しているみたいですが、あまり効果がないようなので、逆に子どもをつくろうという意欲を削ぐような薬があれば、これも面白いと思うんですが、何かそんなことをしないことにはどれだけでも子どもができてくる。何かこの辺、知事、いいお考えはないですか。

知 事

今町長おっしゃっていただいた、大分の国立公園の高崎山自然動物園でニホンザルを対象に避妊薬の処置を平成 24 年度からやっているようですが、大分市役所に聞き取りしましたところ、私も科学的知見があまりありませんが、避妊処置による個体数調整の効果は見られないということですので、今おっしゃった繁殖意欲を削ぐ薬ですとか根本対策としてどういふものがあるのかということについて国とも話をしてみたいと思います。他県でも繁殖部分の根本対策についての成功事例というのは聞いていないので、国とか研究者とも意見交換してみたいと思います。

多気町長

ジェネリック医薬品の日本の大手のある製薬会社の役員の方に、ちょっと話を、「一度、真剣に取り組んでいただけませんか」と言ったら、

「うちは人間対象の会社なので難しい」と言われました。でも、研究すればできないことはないと思うのです。動物を捕って殺処分ばかりしているということで、自然保護団体などが声を上げられるんですが、子どもさえできてこなければ、ある程度のところまでは捕って処分できると思いますので、今言ったように人間はちょっと難しいかもわかりませんが、動物でしたらひょっとしたら、繁殖しようという気分を抑える薬ができるかなと思うのです。人間にはちょっとまずいかわかりませんが、それができたら本当に。笑いごとではありませんが、なんとかこれをしないことには日本の山、田舎というのは多分、獣に侵されてしまっていて大変なことになると思います。

5 バイオマス発電への広域的な木質バイオマス供給体制構築について

多気町長

私の町では、今年7月から本格的にバイオマス発電所、中部プラントが稼働し始めました。1日約200トンの木材チップを焼きます。年間にすると6万5、6千トンのチップ材を燃やします。そして、今度は、またアクアイグニスでも、中の熱利用を含めて10分の1ぐらいの小さな発電所が、動いてきます。

そこで、中部プラントの社長さんの地域貢献をしたいという意向もあり、また、それは私のほうも願っておりまして、なんとか地域の集落周辺に被っている竹や木、これを地元でそういう団体をつくって受けてくださいということをお願いしたところ了解いただき、今、多気町で15団体ほどが組織をつくっていただきました。個人の登録は200名ほどあると思いますが、そこで、自分たちの集落周辺に被ってきている竹や木を切って集めていただいています。今、800トンぐらい集まりました。これは、美化センターに持ってきていただいて、軽トラ一杯、ちょっと値段が下がったんですけども大体2,000円ぐらいにはなるように、補助金を町から出させていただいて集めていただいています。これをすることによって里山が広がりますので、獣害対策にもつながるということで取組を進めています。

もう一つは、集落周辺の中で被ってきている木、それは持ち主が高齢者であるとか不在であったりしてなかなか切っていただくことができず、荒れてきているところもあります。そう言ったことに対応するため、アシスト制度という「自分の家の木を切ることができないので、あなたたち切ってください」という制度もつくったのですが、これはまだ普及が進んでいないので、これについては、来年、もう少し進むような制度をやっ

たいと思っています。

今、県内でもいくつかバイオマス発電の計画箇所が出てきていますので、材を集めてくる所というのが段々限られてきて減ってきています。この辺のこのことについて、ぜひ、県の協力をお願いしたいと思っています。

知 事

木質バイオマス発電所が、今年から新たに運転を開始して、現在、県内で3カ所稼働しているということと、また、新たな計画を持っているようなところもありますので、原料の供給は喫緊の重要な課題であると我々も思っています。

これは、もちろん未利用の物とか、生活に支障のあるような竹とか、そういう物もどんどん使っていこうということもさることながら、やはり県の林業振興にもつなげていきたいという思いもありますので、段々増えていって、一方で、県内で供給が間に合わなかったら他県の物を使い始めて「そちらのほうがいい」ということになって、結局県内の物を使わなくなるというようなことになってしまうと、それは全く本末転倒で意味がないことなので、原料供給の仕組みをしっかりと整えていくということが大変重要だと思っています。

現在、そういう枝葉などの未利用資源の有効利用のために、いろんな路網整備や高性能林業機械の導入、木質バイオマス供給設備の整備、あるいは、主伐促進のための低コスト造林、枝葉などを現地でチップ化して運送する方法を、各地域の事業者と連携して広域で集荷するとか、そういう取組もやっています。

今町長がおっしゃっていただいたように、多気町では独自の仕組みで、また、伊勢志摩地域含む広域の森林から供給するための新たな仕組みづくりにも着手されるということで、大変心強く思っています。

木質バイオマス発電のいいところは、林業振興など雇用につながる発電だということだと思っています。太陽光のようにパネル置いて終わりとか、風力のように羽根を置いて終わりというのではなく、原料供給のために雇用が生まれる発電であるということがいいと思いますので、それが全部うまく稼働するように、そして、その原料供給においても雇用がしっかりできるように、県としてもいろんな支援とか、多気町だけではなく広域連携で原料供給するとか、そういう部分の支援やサポートもしっかりやっていきたいと思っています。

多気町長

知事のほうから「サポートしていきたい」と言われましたので、本当に

ありがたいと思います。

町だけではなかなか、今言いましたアシスト制度も含めてですが、町内のことだけでも難しいと思っているのですが、やはりこれは多気町だけで声を出してやっても難しいので、県の担当者の方も、一緒に協力してやろうということですので、ありがたいと思っています。

今、中部プラントさんのほうでは、森林組合と一緒に協力をしていただいて、今知事が言われた路網の整備、そこを全部借りていただいて、作業道については例えばユンボとか四輪駆動車がずっと入っていけるようなそういう路網でいいので、それについて1メートルあたりいくらというようなことで取り組んでいただいています。これは町も県も一緒になって、少しでも搬出しやすいような方法ができれば、山から木を出すのが楽になると思っています。

今、町のほうでも、その組織の中へチェーンソーを助成したりしているのですが、一時は効果があったものの今はやや停滞しています。そんな状況ですので、これをもっと増やしていくには、やっぱりアシスト制度をもっと定着させて普及しなければと思っています。このアシスト制度、頭の中にパッと浮かんだ段階で「これはいい」と思ったのですが、高齢者や地元にはいない人の山の木や竹を、了解を得て切るというのは、難しいところがあります。これが定着してうまくいくようになると、集落周辺、山間の県道も町道もそうですけども、竹や木を切ることによって、獣害対策にもなるし、道路も通りやすくなりますので、町のほうでは、なんとかそれを全県的に広げていって、うまく材を集めることができればと考えています。少しでも多くの山から材が出せるようになれば、安定した供給体制が築けるとも思っています。

多気町長

このほかに、多気町がこれから特に力を入れていきたいと思っているのが、県道整備です。特に多気駅周辺が、40年、50年も経ってなかなかうまく整備ができないということで、今、多気駅裏の整備をしていこうと思っています。

それと関係して、ダイヘンという大きな変圧器の工場があるのですが、そこへ向けての引き込み線がなくなります。今まで大きな変圧器の輸送は、鉄道輸送でやっていたのですが、引き込み線がなくなるので、ダイヘン側にもってくる県道松阪度会線について、これを一部だけ先行でできないかということで、担当課長に一度県の県土整備部のほうに話をするように言っています。県はお金がないので、国のほうにも働きかけようかと思っています。それと併せて灌漑排水路を一部整備したいと思っています。これ

はいったん計画していたのですが、地元の反対でできなかったので、これを1つやりたいと思っています。あとは、県道松阪度会線が、外城田から多気駅に行くところがずっととまっていますので、これから計画を上げていこうと考えています。

それから、県道勢和兄国松阪線が津田小学校の前を通る箇所、これはもう測量入っていますが、こういうのをできるだけ早くできるようにしたいと思います。

要するに、田舎はインフラ整備を先にやらないことにはなかなか難しいです。今、多気町の一つの大きな課題はそれです。

多気町のほうでもう一つ力を入れてやっていこうというのが健康づくりです。これは、保健師たちが今一生懸命取り組んでいます。多気町は県下ワースト10の中に入っているのが、高血圧と糖尿病と腎疾患、心疾患、脳梗塞、こういった部分がワースト10に入っています。今、保健師たちは、できるだけ検診を受けてくださいということを勧めています、歯の口腔健康フェアをやったり、それから、健診については各字を回ったりして、今、そんな取組をしています。

なぜ、多気町がワースト10に入っているのか、ちょっと僕もよくわかりませんが、これだけ「食のまち」といってあまりおいしい物を食べ過ぎているのかなと思うのと、もう一つは、やっぱり田舎なのでどこに行くにも車ばかりで、多分運動不足もあるのかなとは思いますが。

多気町が、今からどうしてもやっていきたいと思うのがその2つです。ほかにもいっぱいあるんですが、健康づくりとインフラ整備、特に県道整備をやっていきたいと思しますので、いろいろ工面をしていただいて、我々も「国からの補助も」ということでしたら、また国のほうへ要望に行きますので、よろしくをお願いします。

知 事

大変厳しい財政状況にご配慮を賜りまして、ありがとうございます。

とはいえ、必要なインフラ整備はしっかりやっていかなければなりませんので、多気町とよく相談させていただきたいと思っています。

健康づくりについては、高血圧があるとすれば、それはやはり運動不足というのが大きいのではと思いますが、自転車のまちづくりとかもやっていただいていますので、そういうのとうまく結び付けながらやると、さらに相乗効果もあろうかと思っています。健康づくりについては各市町の皆さんの関心度が高いので我々も取り組んでいきたいと思っています。また、協力できることがあればしっかりやっていきたいと思っています。

(3) 閉 会

知 事

久保町長、ありがとうございました。そして、お越しいただきました皆さんもありがとうございました。進行にご協力いただきましたので、無事に終わることができました。

いずれも、この多気町が前に進んでいくために地方創生の中で特徴を出して、ほかの地域と差別化をはかっていくために重要な案件ばかりであったと思っていますので、しっかり連携をして進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。きょうは、どうもありがとうございました。